



なつめ 2月号

(編集・発行)
鹿兒島市立喜入小学校
(発行日)
令和4年2月25日

「オリンピックアスリートの学びに学ぶ」

校長 内村 英人

北京オリンピックを見て、選手たちの姿に感動しながら、職業柄か「子どもたちに学んでほしい。」と思うことが頭に浮かんできました。

メダルを獲得できたか否かに関わらず、一流のアスリートたちには共通していることがあるように思います。それは、管見ではありますが、次のようなことではないかと感じます。

- 彼らの目標は、チャレンジすることであり、技をよりよく高めることである。
- 彼らの目標は、常に最終ゴールではない。目標は更新され続ける。
- 目標達成に向けての過程が大切であることを理解している。
- その過程は、人に支えられていることを理解し、感謝している。
- 苦しい状況を切り拓く術をもち、苦しさを理解してくれる仲間がいる。
- 自分の世界は、人から受け継ぎ、人へ受け継がれていくことを理解している。

一流になる過程で、こういったことを学び、アスリートとして成長しているのではないかと思います。これらの知識や物事の捉え方は、競技外の生活において、また、競技生活が終わった後の人生にも適用できるものです。言い換えれば「概念」あるいは「哲学」と言えるものではないかと思います。オリンピックアスリートたちは、日々の練習や創意工夫の末に、自分が取り組んでいる世界の本当の楽しさや面白さ、すばらしさ、そして、大切なことを知るに至ったのでしょう。テレビで観戦しながら、「彼らは、『まことの学び』をしている。立派だ。」と、教え子でもないのに、そんなことを思いました。

さて、本年度も残り一か月です。花壇のツルコザクラやパンジーも、卒業式会場を飾るために育ててきたサイネリアも咲き始めています。寒い日が続きましたが、もうすぐ春です。



子どもたちの本年度の学びも終盤です。この1年間で様々な知識と出会い、こつや技術を知ったことでしょう。残りの期間は、その知識や技術は、役に立つものであることを理解する学びを、また、その知識や技術のもつよさを発見する学びをしてほしいと思います。そのような学びは、アスリートたちの学びの過程と似た過程を歩むことになると思うのです。そして、目標が更新され、次の学年へと進む準備を整える1か月としてほしいと思います。

我が校の校訓は「至誠」です。その意味は、真心をもって事に当たるということですが、オリンピックアスリートの姿を見て、「まことの学びに至る」という意味を込めたいと思いました。私なりのプチ更新です。学校は、今、本年度の成果と課題を踏まえ、次年度に向けて教育課程を更新中です。

抵抗力を高めましょう (十分な睡眠 適度な運動 バランスのとれた食事)